NPO法人

JSRC

2013年 3月10日

第17号

Jomon Shiba

特定非営利活動法人

縄文柴犬研究センター

NPO法人 JSRC

Jomon Shiba

第 17号

もくじ

初めての作出を終えて　☆JSRC理事　一ノ澤義雄 …… 2

理事会･総会のご案内　☆JSRC理事長　新美治一 …… 3
アテルイの里･交流会のご案内　☆JSRC理事　佐々木俊幸 …… 3

シバの散歩道(17)　☆JSRC理事　根深　誠(文筆家･釣り師･元登山家) …… 4

上顎歯牙の磨耗について-金子先生との交流から　☆五味靖嘉 …… 6

電子書籍に見る会誌の新しい形　☆岩手県　佐々木俊幸 …… 9

お便りコーナー
☆愛知県･西谷さん　☆群馬県･林さん　☆福岡県･大塚さん …… 10
☆京都府･金さん …… 11
☆東京都･菅原さん …… 12
☆石川県･黒梅さん …… 13
様々な日本犬との出会いを通して-3　☆大分県･石井　勲 …… 14
☆富山県･竹内誠一 …… 15

思い出の犬たち-13　紅市王-この犬との関わり　☆柴犬研究所･五味 …… 16

新オオカミ伝説-三重県での出現記録　☆荻原正夫(地方史研究家) …… 18

事務所報告　☆新入会　☆会費　☆御寄付　☆犬舎登録　☆仔犬登録 …… 20
お知らせ　☆新刊紹介「縄文柴犬ノート」 …… 20
☆諸料金一覧　☆血統登録について …… 19
☆総会について　岩手・交流会について …… 19

★2013年度の会費納入用に、郵便「払込取扱票」用紙を同封いたしましたので、よろしく お願いいたします。(既に納入済みの方にも入っておりますので、適宜ご処分下さい) 。
★会員の方には、総会出　欠の有無及び委任状を兼ねた「ハガキ」を同封しました。3月末までに投函して下さい。

・会費や寄附などをお寄せいただいた方の氏名・県名を掲載させていただきますが、匿名を希望される場合は、お知らせください。

特定非営利活動法人　縄文柴犬研究センター

会事務所　**郵便振替口座**　02280-2-106951
〒　014-0073　**秋田県大仙市内小友字堂ノ前119番地5**　TEL　0187-68-2976
http://www.jomon-shiba.com/　encounter_shiba@jomon-shiba.sakura.ne.jp

初めての作出を終えて

福島県・理事　一ノ澤　義雄

そら＝天の白露－白金犬舎
・2011.07.24生
（羽磯の竜王×里の黒花）

今年の冬はここ数年で一番寒く感じ、雪の量も多いともいわれます。雪国の皆様方は、ことにご苦労が多いと思います。

さて、なにも分からない状態でそら（天の白露）の初めての作出を終えて子犬達も新しい里親の所に移りまして、今は安心を致しております。

去年の８月半ばに宮城県の菅原様宅の「奥州紅中」と交配をお願いいたしまして、10月23日に四匹の仔犬が無事に産まれました。交配に関しても全く経験が無かったので、菅原様を信頼してお願いした次第です。初めてのお見合いでも、お互い良い関係で相手の奥州紅中も優しく、長旅で疲れた「そら」を労わる仕草をしていたのがとても印象的でした。

10月23日の朝に仔犬達が誕生したのですが、そらはつい先程まではベッタリと私の側に居たのに、出産したら別人（別犬）になりしっかりと母親をするのです。我が家の家族は、こんな甘えん坊が子育て出来るのか？などといっておりましたが、見事に母親をしている姿に感動を致しました。誰に教えられた訳でも無いのに、見事な子育ては人間の私達も少し考えさせられますね。

子育ては全く不安が感じられなかったので、生まれた後は、ほとんどそら母さんにお任せして、私達は食事と掃除だけして、あとは見守るだけに専念いたしました。

動き回る頃からは、仔犬達の教育も私達が手を加えずに、出来るだけそら母さんに全て任せるようにしましたので、少々野生化？気味に育った感じです。それでも子犬達は人間に対しては、友好的に接して来ます。

仔育ても大丈夫だったので、私は地元で里親探しをするのですが、これが中々難しいなぁ～と実感いたしました。今までお世話になっていた、獣医師さんの病院と、知人の娘さんが勤めている犬猫病院に頼んで、自作のチラシを貼って頂いたのですが中々見つからず、飼いたいと言われた方も居りましたが高齢なので、最終的には飼育は難しいとの事で断念した方も居ります。

幸いにも一頭だけ雄の陸くん（天の流星）が、地元で新しく会に入って下さった矢内様宅に残る事が出来まして喜んで居りますが、意外と里親探しは難しくて、私なりに今後の大きな課題かなと思って居ります。

MLを拝見して、今後、仔犬を産ませたいと考えておられる会員さんもいらっしゃるみたいですが、是非一度、作出を経験してみて下さい。その素晴らしい経験を通して、私達は犬達に多く学ぶ事が出来るし、可愛い孫達（仔犬）との関係も生まれますので、是非トライしてみて下さい。

春の暖かさはまだまだ先の様ですので、皆様お身体をご自愛下さい。特に雪が多い方々はくれぐれも無理をなさらない様にお願い致します。

(2013.1.24)

シバの散歩道 (17)

犬猫看板観光旅行記　その7

根深　誠
（文筆家・釣り師・元登山家）

今回の旅行で東京に滞在中、井の頭公園に出かけたのは、吉祥寺北口駅前の仲見世商店街に「なぎさや」という乾物を売っている店に久しぶりで顔を出したいと思ったからだ。そこの主人は大学山岳部時代の先輩で、一九七七年、ヒマラヤ登山にともに参加したことがあった。そのときは、登頂目前にして遭難事故を起こし、先輩隊員が一名死亡、私たちは敗残兵のごとく心身ボロボロにくだびれて帰国した。亡くなった先輩隊員は私が一年生のときの四年生だった。登山家の定義として、登る・読む・書く、この三拍子が揃っていなければならない、これが持論だった。私がもの書きになったのは、遭難死したこの先輩の影響である。

なぎさやはこの日、休業日だった。が、主人は休んでいたが、息子が店を開いていた。息子は長年、タイのバンコクで日本風の居酒屋を協同経営していた。私も何度か顔を出したことがある。タイ人と結婚して帰国し、いまは家業を継いでいるのだった。

私が事情を話し、井の頭公園の犬猫看板を見学に来たことを伝えると、弘前って変わったところですね、井の頭公園ではみなさん飼犬をつれて散歩していますよ、と笑いながら言った。そして小金井公園にはドッグランもあるので、ぜひ見学すればいいと助言を与えてくれた。広いですよ、というので調べてみると７９㌶あることがわかった。ちなみにわが故郷の弘前公園は４９㌶。小金井公園は今回は無理だが、東京には用事があってたびたび来るので次回にしたいと思う。

井の頭公園には有料の「井の頭自然文化公園」というのがあって、ここには「ペットを連れてのご入園はできません」とあった。有料の場所に飼犬をつれて散歩する人もいないだろうから私有地同様、私の犬猫看板探索の対象外である。ましてや、こうした有料の場所は市民が通行する公の道路と趣が異なる。私が問題にしているのは、万人を対象とした公園であり道路である。しかし、これまで私が見たかぎり、「犬猫入園禁止」の看板を掲げて道路の通行を封じている行政はどこにもない。

井の頭公園ではスケッチの講習会が行われていた。みなさん上手ですね、と感心して言うと、講師は、私はプロだからと、それが当然と言わんばかりの返答をした。他方、受講生の中高年の男女は、そうですかね、まだまだですよ、と謙遜していた。

「なかなかいい趣味じゃありませんか、私もときどきスケッチをするんですが、そんなにうまくはいきません。やっぱり我流じゃダメなのかな」

私には旅先で手遊びにスケッチしたポストカードを友人知己に投函する趣味がある。ところが惜しむらくは、ヘタすぎることである。どうみても様になっていない。画家に伺ったところ、スケッチは絵ではないからそれでいいのだとか。しかし、私としては満足がいかない。

※　※　※

↑・案内板の片隅に小さく記載されている。
弘前市内の看板とは全然ちがう

帰郷する前に上野公園に立ち寄った。JR上野駅の公園口から入ったのだが、東京文化会館をすぎて正面左手、トイレのそばの大きな案内板の右隅に「犬を離さないでください」と注意事項が小さく記されている。

飼犬をつれた歩行者も何組か目にとまる。たぶん、と私は推理した。現代のグローバル化した連鎖社会にあって、弘前市役所だけが封建遺制に胡坐をかいて「井の中の蛙」でいられようはずもない。早晩、「犬猫入園禁止」の不当な立看板は撤去、もしくは文言を改正せざるをえなくなるだろう。

それには二つの選択肢が予測される。一つは自らの不明を恥じて潔く撤去し、将来の開放的な社会に寄与するもの。あと一つはコソ泥のように誰も気がつかないうちに撤去し、旧態依然とした閉鎖的な社会に拘泥するもの。私の予想では後者である。

プードルを二匹つれてベビーカーを押した若い婦人を見かけたので声をかけてみた。もっとも、犬種がプードルであるのは、会話中に婦人から教えられてわかったことである。

・「ついでに私のケイタイでも撮ってください」と、
記念撮影をお願いされた

「写真を撮っていいですか」
「あっ、ちょうどよかったわ。ついでに私のケイタイでも撮ってください」
桜並木の下で、幼児を乗せたベビーカーのわきで愛犬と佇む婦人の容姿には幸福感が溢れ出ていた。おそらく、人生の絶頂期ともいうべきもっとも輝かしい段階にいるのだろうと思った。はたから見ていても微笑ましい情景である。
さて、動物園はどうだろうか。この年（2011年）、三年ぶりでパンダが一般公開されたとあって混雑していた。ペットの入園を断る文言が見当たらないので念のため、切符売り場の係員にたずねてみた。内規で入場はお断りしているとのこと。どういう内規なのか、知りたいところだが、そんなことを切符売り場で訊くのは非常識だし、偏執狂にも思われかねない。
後日、博物館に勤務する鳥獣の専門家の知人に伺ったところ、大きな理由が二つある、とのつぎのような回答が来た。
１）病気の問題です。万が一、ペットが伝染性の病気にかかっていた場合、動物園の動物に感染する恐れがあります。
２）飼育動物へのストレスの問題。動物園で飼育している動物の中には、ペットの鳴き声や匂いに対してストレスを感じる動物がいます。動物が安心して生活で

・上野公園を散歩コースにしていると話していた

・「上野の西郷さん」の銅像。高村光雲作

きる環境作りのため入園の制限を行なっています。
弘前市役所の「犬猫入園禁止」について、その専門家に感想を求めたところ、こう話していた。
「私も公務員の端くれですが、モラルの向上を計るため市民を啓発するのが公務員の仕事であって、排除したり、上から目線で管理するような立場にはないですよ。サービスが職務ですからね。弘前市役所の市民に対する態度は、まるで『お代官様』ではありませんか。時代錯誤ですね」
税金で禄を食んでいながら、市民を食い物にしているようなものである。市民もまた、それを容認している。犬猫看板の背後に潜む、こうした非民主的で差別的な体質が、地域社会の発展を阻害していることは言うまでもない。地域発展のためには最低限、体質改善は欠かせないはずである。

国立西洋美術館で「レンブラント展」を開催していたので見学した。絵画にしても音楽にしても、日々の生活で関心を示すことなどほとんどない身にも、こうして見学したりするのは観光旅行の魅力の一端なのだろう。
見学の記念に売店で買い求めた『レンブラント』（新潮美術文庫）に、帰りの高速バスで目を通した。とくに興味があったわけでもないので、その内容が記憶に残ることもないのだが、それでも人類にとって偉大なレンブラントに敬意を払わなければいけないとの思いは残った。